

2017年度 日本生活学会事業報告

(2017年4月1日～2018年3月31日)

I. 事業活動

- 第44回総会・研究発表大会開催
2017年5月20日(土)、21日(日) 亜細亜大学
- 生活学プロジェクトの運営
- 生活学ヘリテージ・プロジェクトの成果公開

II. 役員会開催

1. 理事会 5回
2. 『生活学論叢』vol.31、32 編集委員会 8回
3. 今和次郎賞2017選考委員会 メール審議
4. 日本生活学会研究論文賞2017選考委員会 1回
5. 日本生活学会博士論文賞2017選考委員会 1回

III. 出版物発行・メールニュース配信

- 2017年5月 「第44回研究発表大会梗概集」
- 2017年9月 『生活学論叢』vol.31
- 2018年3月 『生活学論叢』vol.32
- 『日本生活学会フィールドワークシリーズ』
- 日本生活学会メールニュースの配信

IV. 委員会活動

1. 総務委員会

委員長 森栗茂一

- (1)第44回総会の開催 2017年5月20日 於：亜細亜大学
2016年度事業報告、同収支決算報告、2017年度事業計画案、同事業予算案作成
日本生活学会研究論文賞(1件)、日本生活学会博士論文賞(1件)
- (2)大会(公開シンポジウムならびに口頭発表)開催
2017年5月20日、21日 於：亜細亜大学
- (3)理事会運営 5月20日、7月15日、10月14日、1月27日、4月14日
- (4)理事・監事選挙の運営(Web選挙の導入) 投票期間12月7日～25日

2. 学術委員会

委員長 三好恵真子

- (1)日本生活学会第44回研究発表大会が、亜細亜大学武蔵野キャンパスにおいて、5月20日(土)、21日(日)に開催された。「現代の生活とまちづくり—生活学からの検証—」をテーマとした公開シンポジウムが実施されるとともに、生活プロジェクト成果報告を含む43件の研究発表が行われた。
- (2)研究者の育成、支援の一環として、日本生活学会博士論文賞の審査を行い、本年度は該当者なしと決定した。

3. 『生活学論叢』編集委員会

委員長 祐成保志

- (1)論叢を年2回発行として、刊行を行った。
生活学論叢 第31号 2017年9月発行
第32号 2018年3月発行

4. 事業委員会

委員長 富田宏

- (1)研究助成事業「生活学プロジェクト」の第3回を実施した。本プロジェクトも徐々に定着し、学会員に知られるところとなり、応募が13件あり、採択審査委員会の先生方にご協力いただき、応募13件中、プロジェクト名称の使用のみ（助成なし）を含めて13件をプロジェクトとして採択した。
- (2)事業委員主体のセミナー・シンポジウムの企画開催・他団体との交流を図った。隔年で行なわれる日本民具学会、道具学会との共同主催シンポジウム「野良道具／フィールド・デバイス世界をつくる」(3月10日)を主催し、生活を形作る道具の意義について多方面から検討した。
- (3)既往の各種事業に対する状況確認・制度支援については今後の継続課題である。生活学プロジェクトにおいて特に萌芽研究については効果的な制度支援を行なっている。大会での関連発表も活発化した。
- (4)生活学ヘリテージ・プロジェクト
- (5)生活学カフェ

5. 情報委員会

委員長 饗庭伸

- (1)ウェブサイトの運営 適宜会員向けの情報発信を行った。
- (2)メールニュースの運営 適宜会員向けの情報発信を行った。
- (3)フェイスブックの運営 適宜会員向けの情報発信を行った。
- (4) 日本生活学会の100人 若手学会員等を対象にインタビューを行い、6名分の記事を作成してウェブサイトで公開した。

V. プロジェクト活動報告

1. 生活学ヘリテージ・プロジェクト

代表 小林多寿子

- (1) 2017年度は、生活学ヘリテージ・プロジェクト成果の最終公開を行った。

2. 『日本生活学会フィールドワークシリーズ』作成プロジェクト

代表 石川初

- (1) 活動年限5年の4年目の企画として、都市や地域を対象としたフィールドワークの授業やゼミを実践されている会員数名に原稿を依頼し、冊子を編集、印刷した。冊子は生活学論叢に同封して会員に送付したほか、ウェブサイトを通して公開する。

以上